

NEWS LETTER

参画室の活動予定と利用できる支援

第8回奈良先端大男女共同参画推進シンポジウムを開催します

2015年11月19日(木)に、情報科学研究科との共催で第8回男女共同参画推進シンポジウムを開催します。今年度のテーマは「日本人の働き方、外国人の働き方、そしてワークライフバランス」です。みなさまの参加をお待ちしております。

日時：2015年11月19日(木)
時間：15時10分～17時10分(予定) 開場/受付：14時50分
場所：奈良先端大 情報科学研究科 情報L1 講義室(1階)
内容：以下の講演とパネルディスカッション
・高橋美恵子氏(大阪大学教授)
「スウェーデンにみるバランスのとれた働き方」
・森田雅也氏(関西大学教授)
「新しい働き方には新しいマネジメントを」



第2回介護セミナーを開催します

2015年10月27日(火) 13:30～14:30に、第2回介護セミナー「介護と仕事の両立～私の介護体験から」を研修ホールにて開催します。

昨年度実施した第1回介護セミナー「介護入門講座」では、もし介護が必要となったときにどうすればよいか、相談窓口やサービスの種類についての情報提供を行いました。終了後のアンケートで「具体的な事例を知りたかった」との声が複数あったことから、今年度はより具体的に介護の問題を考える契機となることを目的として、「男性介護者を支援する会TOMO」代表の林政廣氏を講師に迎え、介護者を取り巻く現状と実際の介護経験について講演いただきます。

みなさまの参加をお待ちしております。

大学主催イベント時の託児サービスをぜひご利用ください

来る2015年11月8日(日)に、本学にてオープンキャンパスが開催されます。男女共同参画室では、当日の運営に携わる学生・教職員を対象に、「託児室せんたん」で一時託児サービス(無料)を実施します。

これまでに託児サービスを利用した方からは「おもちゃが沢山あり、子どもも楽しんでたようだ」との声をいただきました。11月もぜひご利用ください。

～詳しくは、男女共同参画室までお問い合わせください～



ランチミーティングを 開催しました

2015年7月2日(木) にランチミーティングを開催しました。

今回も男女問わずたくさんの教職員のみなさまに参加いただきました。北欧で研究生生活を送った経験のある先生が初めて参加されたこともあり、日本と北欧の社会保障や子育て、教育制度、男女の働き方、そして時間感覚の違いなどについて話をしました。

ランチミーティングは、各自持参した昼食をとりながら、ざっくばらんに交流する場です。お気軽にご参加ください。

次回は10月6日(火)12:30-13:30に開催します。



参画室の入り口に閲覧棚を置きました。
ぜひご利用ください。

けいはんな女性研究者ネットワ ークの記事が日刊工業新聞に 掲載されました

2015年7月30日(木)に、けいはんな女性研究者ネットワークが日刊工業新聞の取材を受けました。世話人である情報科学研究科の井上美智子教授と、物質創生科学研究科の寺田佳世助教が対応されました。

この様子は2015年8月27日付の日刊工業新聞24面に掲載され、けいはんな女性研究者ネットワークのメーリングリストに約100名の参加があり、定期的で開催される茶話会が情報共有の場になっていることが紹介されました。



他大学を訪問しました

2015年8月24日(月)、他大学の男女共同参画の取組みを調査するため、電気通信大学女性研究者支援室と、首都大学東京ダイバーシティ推進室を訪問しました。

それぞれの大学における女性研究者の研究活動の促進のための各種取組みや奨励金制度、ワークライフバランスのための研究支援員配置のしくみ、保育施設の整備など、多くのことを学ぶことができました。



電気通信大学訪問時の一場面です。

NEWS LETTER

アカデミックアシスタント制度を利用して part2

本学では、研究と育児等との両立を支援し、最先端研究の成果の向上に資することを目標として、アカデミックアシスタント（研究技術員）制度を設けています。今回も前回に引き続き、平成26年度に本制度を利用された先生にお話を伺いました。

～今回お話を伺うバイオサイエンス研究科の宮島俊介先生と古田かおり先生は、同じ研究室に所属されているご夫婦で、2歳と0歳2ヶ月の2人のお子さんがおられます。本学のアカデミックアシスタント（AA）制度では、通常、一人の研究者に一人のAAが配置されるのですが、宮島先生と古田先生には、夫婦に対して一人のAAの配置をしました。～

〇AAについて

宮島・古田／平成26年度はAAとして乾さんに勤務していただきました。もともと本学で技術職員の経験が7年間あった方だったので、当初からお願いした仕事を的確にこなしてもらえて大変助かりました。私たちは、研究で取り扱う遺伝子は異なるのですが、必要となる実験材料やテクニック、遺伝子組み換えの作業は同じなので、乾さんには私たち二人の研究に共通する業務をしてもらいました。彼女には、本年度もAAとして引き続き勤務してもらっています。

〇AA制度へのご意見

宮島・古田／科研費などは実験をする際の消耗品などに利用していますので、今後もAA制度による支援を受けることができれば、たいへん助かります。また、今のAA制度では時間給額が一律に設定されているので、雇用する方の知識・経験によってフレキシブルな段階を設定できるといいと思います。さらに、AAの申請時期が雇用開始の直前なので、たとえば2か月くらい早めに申請時期を設定してもらえればと思います。



古田 かおり 研究員

バイオサイエンス研究科
植物発生シグナル研究室（中島ラボ）
※平成27年度は日本学術振興会特別研究員
AA 乾奈布子さん



宮島 俊介 助教

バイオサイエンス研究科
植物発生シグナル研究室（中島ラボ）
AA 乾奈布子さん

〇研究について

宮島／バイオ分野における研究は、工場の稼働時間が長ければ長いほど生産性が上がるのと同じで、研究のための様々な下準備をどれだけできるかが研究を進める上での基礎になります。

この下準備には、種をまく、種を回収するなどの単純作業から、分子生物学的手法を用いたものまで、色々ありますが、これらの作業はラボで行わないと進まず、ラボでどれだけ作業をできるかが研究成果に直結します。

古田／他の研究分野であれば、自宅で作業を行うことにより研究を進めることができるかもしれませんが、私たちが行っている遺伝子組み換え作業に必要な道具は、法律上、持ち帰ることができません。



○育児と研究活動の両立

古田／今年6月に2人目を出産し、現在は育児休業中ですが、9月には復帰を予定しています。乾さんがいるから、いま、安心して休むことができ、育児に専念しようと思えます。もし乾さんがいなかったら、育児休業をとることも、育児に専念することもできないと思うので、乾さんは私たち夫婦にとって欠かせない存在です。

宮島／私は保育園に預けている上の子のお迎えのために、17時にいったん帰宅し、家事・育児をしてから、夜遅くに研究室に来て作業し、朝方まで作業してまた家に帰る生活をしています。家で育児している間にも、他の研究者は作業を進めているので、その分、私の研究は遅れをとることになります。競争の激しい研究分野なので、乾さんに作業をしてもらうことで、私の研究は回っている部分があると言えます。

また、実験でトラブルがあっても私が17時には帰宅してしまうので、学生は困っていると思います。そのため、学生とは、できるだけ日中に顔を合わせられる時間にコミュニケーションをとるように心がけています。

古田／たしかに学生には不満があると思います。でも主人は17時にいったん帰宅するけれど、そのあとラボに

戻って仕事している姿を学生に見せています。不満はあるけれども、先生もがんばっているんだなと思って研究室が回っている部分はあると思います。

宮島／これからの世の中、子どもを育てながら仕事をすることは、こういうことだと見てもらうのは学生にとってもいいのかもしれないですね。僕らの親の世代は、お父さんが仕事してお母さんが家にいてっていうモデルが典型だったから。

私たちは2011年にフィンランドのヘルシンキ大学で出会って、一人目の子どもを授かり、フィンランドで出産と育児を経験して日本に帰ってきました。フィンランドでは両親二人に対して1年間の育児休暇があり、先に母親が6か月、後で父親が6か月取得するというのがよくあるパターンでした。初めて子どもを持ったのがフィンランドだったので、抱っこ紐をしてスーパーに行くことを含めて「これくらい育児するものだ」という刷り込みがありますね。

古田／ずっと日本にいたら周りに合わせてしまっていたと思います。



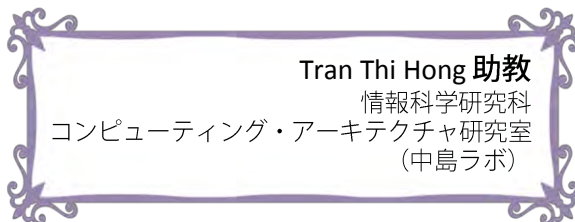
2015年8月6日
二人目のお子さんと

○AA制度を利用して

古田／出産や育児のために研究ができないというフラストレーションはあるけれども、乾さんがAAとして勤務してくれているから、少しずつでも作業が進んでいると思うと心強かったです。また、私たちのラボには女子学生がけっこういるので、子どもを産んでも働けることを学生たちに見せていこうと思っています。ここで私がちゃんとしないと続く女子学生が希望を持ちにくいかもしれないと思うので、できるだけがんばろうと考えています。

女性研究者スタートアップ研究費（教育研究助成）を受給して part2

本学では、優秀な女性教員の採用促進を図るために、新規採用の女性教員の研究立ち上げに対して研究助成をおこなっています。平成21年から平成27年8月までに17名の女性教員を支援してきました。今回は平成27年1月に赴任され、現在研究助成を受給中のTran Thi Hong先生をご紹介します。



Tran Thi Hong 助教

情報科学研究科
コンピューティング・アーキテクチャ研究室
(中島ラボ)



スタートアップ研究費 を受給して

本学に採用が決まった後に（現在所属している研究室の）中島先生に、本研究費を利用できることを教えていただきました。当時はまだ博士課程の学生だったので、中島先生にアドバイスをいただきながら申請書を作成しました。

研究費は、機器の購入や、学会への参加経費、シミュレータツール MATLAB licenseの購入費用、ベトナムからの学生を共同研究者として受け入れた際の謝金などに利用しています。本研究費による支援のおかげで、研究

の計画が順調に進んでいます。成果としては、2本の論文を発表することができました。研究会などに情報収集のために参加することもできました。ご支援をありがとうございます。

本研究費制度への意見としては、着任前に本学での研究環境がどのようなものか状況がつかめなかったため、研究費を使って何を購入すべきかを着任前後の時期に決めることは難しかったです。本研究費は助成期間が着任日から1年間と決まっていますが、たとえば着任半年後から1年間を助成期間にするとか、着任から2年間を助成期間にするなどとしていただけたら、使うべきところに使えたと思います。

女性としては本研究費のサポートがあっただけよかったと思っています。男性の先生にはスタートアップ研究費も必要だと思いますが、男性の先生の数には女性に比べて多いですし、大学の予算上、すべての男性教員をサポートできるのかどうかについては難しい状況があるのかもしれないと思います。



ベトナムから日本の大学 に進学するまで

2008年にベトナムの大学を卒業後ベトナムにあるAltera（アルテラ）の研究所に就職しましたが、着任してから8か月後に経済的問題が発生したため、この研究所が閉鎖されました。その後、ベトナム国家大学ホーチミン校の半導体設計機関であるICDREC（Integrated Circuit Design Research and Education Center）に勤めました。

ICDRECに勤務していた頃に、沖縄で開催された電子回路関係のコンテストに参加しました。私はそのコンテストで一位を獲ったのですが、コンテストの主催者だった九州工業大学の先生が研究室に来るようにと誘ってくださいました。

来日を目指して2010年7月にホーチミン科学大学院大学の博士前期課程に入学しました。この大学が九州工業大学と協定関係にあったので、2010年10月から2011年9月の1年間、交換留学生として日本に滞在しました。帰国後、

ベトナムで修士課程を終え、2012年10月に九州工業大学の博士後期課程に入学し、2014年12月に博士号を取得しました。その後、おかげさまでNAISTの職員になりました。



なぜ研究者に？

子どもの頃、「こんな職業に就きたい」という夢はとくにありませんでした。ただ、マリ・キュリーの伝記を読んで憧れを抱いた記憶はあります。高校生のとき、漠然と「研究者になれたら」と考えましたが、どのようにしたらなれるのかわかりませんでした。大学を卒業し社会人を2年間経験した後、進学チャンスがあったので修士課程に進みました。ベトナムでは学費が日本ほど高くないことも進学を後押ししてくれたと思います。



理系分野の女性 そして仕事

学部学生ときは物理学を専攻していて、専門分野は電子分野の回路設計でした。女子学生は少なかったですね。大きいクラスのおよそ300人中女性は20人くらい、専門分野も60人中女性は8人でした。

研究所で働いていたときも女性は少なかったですが、楽しかったです。いままでの自分の人生を振り返って考えても、理系に進んだことは正しかったと思います。自分以外女性がまったくいないという環境でもなかったし、女性も男性もみな親切でした。同僚との仲は良かったです。人間関係などの問題に労力をとられることもなく、仕事のことだけに集中して過ごせました。

研究職に就いた自分はラッキーかもしれないませんが、この分野には女性が少ない分、求職中に（私の場合は大学の

卒業、Alteraの退職、博士後期課程の卒業後）すぐに仕事が見つかりやすかった面はあると思います。ベトナムも日本もこの状況は同じなのではないでしょうか。

ベトナムでは女性が働くのはあたりまえなのですが、これは日本と少し違うかもしれませんね。出産前後は休暇を取りますが、何か月後かには復帰します。育児は祖父母が同居して助けたり、ホーチミン市など別居も多い大きな市では、夫婦が助け合っています。保育所への送りは妻で、迎えは夫というように。ただ、やはり女性のほうが育児家事負担は重く、男性は3、4割を担っています。



日々の生活とこれから

朝10時頃に研究室に来て、学生の指導や自分の研究をし、庶務をこなして夜9時か10時頃に帰宅します。帰宅後は食事をしてからインターネットをしたり、九州にいる夫やベトナムにいる家族と電話で話したりします。時々午後6

時ごろに帰宅し、畑に育っている野菜に水やりをする時間を楽しみにしています。

夫は現在博士後期課程の学生で、来年3月に修了予定なのですが、関西圏で研究職の仕事に就ければ、と願っています。

研究者を目指す学生に 伝えたいこと

中島研究室のIoT（Internet of Thing）用無線通信システムの開発チームは女子学生を大募集中です。もちろん男子学生もWelcomeです。皆さん、是非チームに参加してください（笑）。

